

令和3年度 第12回政策推進会議報告

日時 11月30日 13時30分～15時00分

場所 WEB会議室

出席者 19人

1 次期尼崎市議会定例会市長提出予定案件について

総合政策局長及び資産統括局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) しっかりと議会対応していきたいのでよろしくお願いします。

2 第4次尼崎市男女共同参画計画(素案)及び素案に対する市民意見公募手続の実施について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) いくつか協議しているポイントもあるが、またパブリックコメントで色々ご意見も出ると思うので、その時にあわせて、修正する点はまた皆さまにも報告する。

3 第11次尼崎市交通安全計画(素案)及び素案に対する市民意見公募手続の実施について

危機管理安全局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) これも局を超えた取組として進捗を管理していくことになる。警察や団体、企業の皆さまと一緒に取り組むことになるので、各組織の取組を情報共有しつつ連携し、相乗効果を高めていきたい。行政内部についても、例えば自転車に乗っている高齢者の事故が多い件について考えるときに健康づくりや学校教育など関連部署が多岐に渡るなど、しっかり横連携を強めながら、振り返りもしっかりやっていきたいのでご協力をよろしくお願いします。

4 第4期あまがさきし地域福祉計画(素案)及び素案に対する市民意見公募手続の実施について

健康福祉局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(こども青少年局長) 5ページの(仮)重層的支援推進課が司令塔になるということか。また、③(仮)基幹包括化推進員がこの取組のキーパーソンになると思うが、これは市の職員なのか、社協等の職員なのか。
- ・(健康福祉局長) あくまでも組織については議論中で、健康福祉局としての検討状況ということでご理解いただきたいが、(仮)重層的支援推進課が地域づくり支援や多機関協働事業などをトータルコーディネートして引っ張っていってもらえるような、ヘッド機能を持った基盤的

な組織を設置しようと考えている。(仮)基幹包括化推進員は市の職員で考えており、南北保健福祉センターの包括化推進員や各地域課とも連携しながら取組を進めていく。

- ・(こども青少年局長) 承知した。気になったのは、「誰でもやれる事は誰もがやらない」場合があるということ。
- ・(市長) たしかに、誰でもやっていいことなので、誰もやらないというケースが生じてしまっている。重層的なもので明確に担当が決まらないケースは特にそうなりがちである。(仮)重層的支援推進課の設置にあたって気をつけないといけないのが、この課だけが今回の取組を担うのではなく、あらゆる課が関わる中でそのコーディネートを行う。取組の中心としてグリップする仕事を(仮)重層的支援推進課がやることにはなるが、複合的なチームとしてケースに当たるということ。まだ議論が固まっていないため、今後各局の意見をいただきながらということにはなるが、まず第1に、地域振興センターに期待されている役割として求められているのは、例えば民生児童委員からの相談や、近所でゴミ屋敷が発生して困っているといった声を早期にキャッチすること。その中で、案件によっては庁内外を含めて多くの組織と連携して実施する高度な取組になってくると課長や所長がしっかりとそれをサポートしていく。また、これもまだ議論の途中だが、今回新しい取組として、子どもの引きこもりの方で先に始めているアウトリーチを積極的に進めようと考えている。実施にあたっては、他との繋がりがつくりにくい人ほど、一緒にご飯を食べに行くといった、行政が指導的に関わるのではない関わり方が重要になってくることを踏まえ、民間団体と組めたらということになっているが、成人から年配の方まで幅広くアウトリーチを実施する団体はあまり聞いたことがなく、協力先が無い可能性もある。そうなってくるとアウトリーチも少し直営でやっていくことも視野に入れないといけないかもしれないし、民間団体と組むにしても、その支援には必ず若手の公務員が研修等で経験を積めるようにすべきだと思っている。こういう取組をやっていくと、福祉の専門家である社協の地域福祉活動専門員がどんな動き方をするのかという話にもなり、そういった具体的なケースも見ながら、穴にならなければ重なっていてもいいと言う考え方で色んなモデルケースを積み重ねていけたらと考えている。最初は描いたとおりには進まないかもしれないが、ハード部門も含め本当に無関係な局がないような取組になると思うので、力を合わせてやっていけるよう、よろしく願います。
- ・(総合政策局長) この取組は令和4年4月1日からスタートするという理解で間違いないか。また、福祉に対する姿勢については各地域振興センターを含め部署によって温度差があると思っているので、しっかり仕事として位置づける、ミッションをしっかり伝える必要があると思っている。そのためにもまずは、この取組に対する私自身の理解をもっと深めないといけないと思っており、残された時間の中で、健康福祉局と連携しながら進めていきたいと思うのでよろしく願います。
- ・(健康福祉局長) まだ議論中で前述の(仮)重層的支援推進課という新たな組織が作られる前提にはなるが、その組織をベースとして令和4年4月1日から少しずつ、まずは各地域課へのヒアリングによる課題の収集、調査といったことからスタートしていくことを考えている。支援計画を全てスタートできるわけではないと思うが、システムの導入等も含め、4月1日から新たな課が具体的な取組を進めていくためのスタートを切るという風に思っただけ

ればと思う。取組を進める中で、意識の差などを埋めるような動きが必要であれば、この(仮)重層的支援推進課で担っていきたいと思っている。

- ・(市長)地域振興センターは本当に今、試行錯誤しながら前へ進んでおり苦勞もかけているが、はっきり言って誰が配属されるのかがものすごい肝になっていく。まず今年度中は組織としての最低限の業務内容についてしっかりと確認していくことと、4月には少し人事異動を伴うと思うので、そのメンバーともう一度個別にまた地域ごとの特徴も踏まえた打ち合わせをしっかりと入れていく中で、年度当初からいきなり完成系ではスタートできないというのはさきほど話があったが、4月からのメンバーでまたギアを入れていくイメージかと思っている。いずれにしても、まだネーミングや業務分担など、完成形になっていないところもあるが、協議を進めていきたいと思っているのでよろしくお願いします。また、地域福祉計画の常なるネックだが、要支援者の見守り活動地域数について、白地地区を0にするということを今回も目標として掲げている。これについても、例えば小田地区みたいにマンションが林立するようなエリアでは高校と連携して、高校生が見守りに入ってくれるような取組が展開されているなど少しずつ事例が出てきている。地域の特性に応じて、しっかり進めていきたい。また、地域学校協働本部の取組や、子どもたちの支援ということももちろん、地域福祉の一環でもあり、引き続き重要な取組として頑張りたいのでよろしくお願いします。

以 上